

【概要版】

令和元年度久米南町財務書類4表（一般会計等）

※普通会計ベース

久米南町では令和元年度決算より、「統一的な基準」に基づく財務書類の作成・公表を行います。

財務書類4表は①貸借対照表、②行政コスト計算書、③純資産変動計算書、④資金収支計算書で構成されており、4つの表は以下のような相関関係にあります。

この4表は、民間企業でいう①貸借対照表、②損益計算書、③株式資本等変動計算書、④キャッシュフロー計算書にあたるものですが、民間企業と行政とでは事業目的が異なるため、それぞれを完全には比較できません。

財務書類は、現在の現金主義の決算書を補完するものとして、4表の作成・公表をしています。

① 貸借対照表

町がサービスを提供するために保有している資産とその資産がどのような財源で構成されているかを表すものです。久米南町の一般会計等（普通会計）の資産合計は約154億5千6百万円、将来世代の負担が約39億8千万円、今までの世代の負担で形成された資産は約114億7千6百万円ということがわかります。

② 行政コスト計算書

1年間の行政活動のうち、資産形成に結びつかない行政サービスに係る費用を表したものです。

社会保障費などの移転支的コストが約14億2千4百万円、次いで物件費などの物にかかるコストが約11億9千3百万円、人件費が約7億6千2百万円と続きます。

③ 純資産変動計算書

貸借対照表の純資産の部が1年間の活動でどのように増減したかを表すものです。今年度は30年度末の残高約116億6千1百万円に対し、約1億8千5百万円減の約114億7千6百万円となりました。

④ 資金収支計算書

1年間の現金の動きを3つに区分したものです。人件費・物件費・社会保障費といった支出とそれに対する収入との差の業務活動収支は、約3億4千8百万円です。この部分では黒字ですが、投資活動収支は△3千5百万円、地方債償還などの財務活動収支は△3億3千2百万円となっています。

投資活動収支と財務活動収支の赤字を業務活動の黒字で埋め合わせしたかたちですが、1千9百万円の現金が減少しています。

① 貸借対照表

(単位：百万円)

【資産の部】		【負債の部】	
○固定資産（庁舎等）	14,488	○負債（地方債等）	3,980
○流動資産（現金等）	968	【純資産の部】	
・うち現金預金	204	○純資産	11,476
資産合計	15,456	負債・純資産合計	15,456

② 行政コスト計算書

(単位：百万円)

A【業務費用】	1,994
○人件費（職員給与等）	762
○物件費等（物件費、減価償却等）	1,193
○その他（支払利息等）	39
B【移転費用】	1,424
C【経常収益】	152
D 純経常行政コスト A+B-C	3,266
E【臨時損失】	146
F【臨時利益】	0
純行政コスト D+E-F	3,412

④ 資金収支計算書

(単位：百万円)

【業務活動収支】	348
【投資活動収支】	-35
【財務活動収支】	-332
本年度資金収支額	-19
前年度末資金残高	210
本年度末歳計外現金残高	13
本年度末現金預金残高	204

③ 純資産変動計算書

(単位：百万円)

前年末純資産残高	11,661
-	
純行政コスト	3,412
+	
財 源	3,216
+	
そ の 他	11
=	
本年度末純資産残高	11,476